

文章題テスト・小説(1)

月 日
名 前

10
問正解

★ つぎの文しようを読んで、後のもんだいに答えましよう。

ある日、あゆむが学校から帰つてくると、後ろから、りかと和子かずこが追いかけてきて、りかが声をかけました。

「あゆちゃん、ちよつと待まって。たのみたいことがあるのよ。」

「どんなこと？」

立ちどまったあゆむに、和子が言いました。

「あのね、このごろ、としゆきくんたちがわたしのことをチンパンジーってよぶでしょう。わたし、あしたの学級会がっきゅうかいでそのことを言うから、あゆちゃん、おうえんしてね。」

「たのむわ、あゆちゃん。」

と、りかも言いました。

「うん、おうえんするよ。」

あゆむは女の子にたよりにされたので、

《 》、むねをそらして引きうけました。

そのつぎの日の学級会の時間、あゆむが待っていると、いよいよ、となりのせきから、和子が立ち上がって言いました。

「わたしのことをチンパンジーという人がいるけど、わたしのどこがチンパンジーににてるんですか。」

3 とたんに、としゆきが言いました。

「ひたいのところ、よくにてるよ。」

本田ほんだくんも言いました。

「口のところなんか、そっくりだよ。」

「はあい、まゆ毛のところ。」

なん人もの子が、あそこもにている、ここもにている、と口ぐちに言い出しました。和子はまっ赤かになってつぶやきました。

4 「しまった。言うんじゃなかったわ。」

その顔は、ちつともチンパンジーにはにいていません。

あゆむは、ぱつと手を上げました。

「はい、あゆむくん。」

あゆむは立ち上がってしゃべりました。「和ちゃんがチンパンジーににてるんだったら、ぼくたちみんなチンパンジーににてるよ。ぼくたち、チンパンジーと親るいだもんな。だから、和ちゃんのことをチンパンジーというのは、おかしいんだ。」

そのあと、りかが言いました。

「人をあだ名でよぶのは、よくないと思います。」

そこで、学級会は、和子をチンパンジーというあだ名でよばない、ということがきまりました。

(古田足日「だんち5階がぼくのうち」より)

(注) 親るい…同るい、同じようなもの



1 線1 「たのみたいこと」とは、どのようなことですか。次の□にあうことを、文しよう中から書きぬきましましょう。

あしたの学級会で、あゆむが、
□
の
□
をすること。

2 《》に当てはまることを、ア～エから一つえらんで、記号に○をつけましましょう。
アうれしくなって イがっかりして ウかなしくなって エいらいらして

3 線2 「わたしのどこがチンパンジーにってるんですか」とありますが、みんなはどこがにていると言っていますか。文しよう中から三つ書きぬきましましょう。

□ □ □

4 線3 「とたんに」とほぼ同じいみのことを、ア～エから一つえらんで、記号に○をつけましましょう。

ア いつものように イ ばかにするように
ウ ほとんどどうじに エ しばらくしてから

5 線4 「和子はまっ赤になって」について、①、②のもんだいに答えましましょう。

① 和子の何がまっ赤になったのですか。文しよう中から一字で書きぬきましましょう。

和子の

□

② このときの和子の気持ちとして当てはまらないものを、ア～エから一つえらんで、記号に○をつけましましょう。

ア はずかしい イ うれしい ウ かなしい エ くやしい

6 あゆむやりかのがんばりで、学級会ではどのようなことがきまりましたか。文しよう中のことを使^{つか}って、二十字くらいで書きましましょう。

文章題テスト・小説(2)

月 日
名 前

★つぎの文しようを読んで、あとの問いに答えましよう。

おかしなはがきが、ある土曜日の夕がた、一郎のうちにきました。

かねた一郎さま 十九日

あなたは、ごきげんよろしいほど、けっこです。
あした、めんどなさいばんしますから、おいで
んなさい。とびどぐもたないでくなさい。

山ねこ 拝

こんなのです。字はまるでへたで、墨もがさがさして指につくくらいでした。けれども一郎はうれしくてうれしくてたまりませんでした。はがきをそつと学校のかばんにしまって、うちじゅうとんだりはねたりしました。

ね床にもぐってからも、山猫のいやあとした顔や、そのめんどうだという裁判のけしきなどを考えて、おそくまでねむりませんでした。

けれども、一郎が眼をさましたときは、もうすっかり明るくなっていました。おもてにでてみると、まわりの山は、みんなたたいまできたばかりのよう
にうるうるもりあがって、まっ青なそらのしたにならんでいました。一郎は
いそいでごはんをたべて、ひとり谷川に沿ったこみちを、かみの方へのぼつ
て行きました。

すきとおった風がざあっと吹くと、栗の木はばらばらと実をおとしました。
一郎は栗の木をみあげて、

「栗の木、栗の木、やまねこがここを通らなかつたかい。」とききました。
栗の木はちよつとしずかになつて、

「やまねこなら、けさはやく、馬車でひがしの方へ飛んで行きましたよ。」と
答えました。



「東ならばくのいく方だねえ、おかしいな、とにかくもってってみよう。栗の木ありがとう。」

栗の木はだまってまた実をばらばらとおとしました。

一郎がすこし行きますと、そこはもう笛ふきの滝たきでした。笛ふきの滝たきというのは、まっ白な岩の崖がけのなかほどに、小さな穴あながあいていて、そこから水が笛のように鳴って飛び出し、すぐ滝たきになって、ごうごう谷におちているのをいうのでした。

6 一郎は滝たきに向かむって叫さけびました。

「おいおい、笛ふき、やまねこがここを通らなかつたかい。」

滝がぴーぴー答えました。

「やまねこは、さっき、馬車で西の方へ飛んで行きましたよ。」

「おかしいな、西ならばくのうちの方だ。けれども、まあも少し行ってみよう。

ふえふき、ありがとう。」

滝はまたもとのように笛を吹きつづけました。

(みやざわけんじによる)

(注) とびどく…飛び道具(てっぼうなど)のこと

拝…自分の名前の後につけて、相手(あいて)をうやまうことば

かみの方…川上(かわかみ)・上流(りゅう)

1 線「おかしいなはがき」について、次のようにまとめました。□に当て

はまることばを、文中からそれぞれ書きぬきましょう。

□ から、一郎あてにとどきました。

□ 字は □ で、文もまちがいたらけです。

2 線2 「うれしくてうれしくてたまりません」とありますが、この気持ちをもっともよく表れている部分を、文中から二十字まででさがし、はじめの五字を書きぬきましょう。



3 線3「すっかり」の使い方として正しいものを、ア～エから一つえらんで、記号に○をつけましょう。

ア かみの毛を短く切ったら、気分がすっかりした。

イ 教科書の入ったランドセルが、すっかり重い。

ウ 大切なやくそくを、すっかりわすれていた。

エ この町は、十年前からすっかりかわらない。

4 線4「ならんでいました」とありますが、何がならんでいたのですか。文中から五字で書きぬきましょう。

5 線5「谷川に沿ったこみちを、かみの方へのぼって行きました」とありますが、一郎は何をしに行ったのですか。次の□に当てはまるように書きましょう。

に行った。

6 線6「一郎は滝に向かって叫びました」とありますが、どうして叫んだのですか。もっともふさわしいものを、ア～エからえらんで、記号に○をつけましょう。

ア 滝がうそをついていると思ったから。

イ 何度聞いても、滝が答えてくれなかったから。

ウ 滝が、見えないほど遠くにあったから。

エ 滝の音が、とても大きかったから。

7 次の①、②に答えましょう

① □に入れるのにもっともふさわしい月を、ア～エからえらんで、記号に○をつけましょう。

ア 三月 イ 六月 ウ 九月 エ 十二月

② ①でえらんだ理由を、次の□に当てはまることを書いてせつめいしましょう。

--

が

--

ことから、季節は

--

だとわかるから。



★つぎの文しようを読んで、あとの問いに答えましよう。

月夜つきよに七人の子供こどもが歩いておりました。

大きい子供も小さい子供もまじっておりました。

月は、上から照てらしておりました。子供たちのかげは短みじく地べたにうつりました。

子供たちはじぶんじぶんのかげを見て、ずいぶん大頭で、足が短いなあと
思いました。

そこで、おかしくなって、わらい出す子もありました。あまりかっこうが
よくないので二、三歩走ってみる子もありました。

こんな月夜には、子供たちは何か夢ゆめみたいなきことをかんがえがちでありました。
子供たちは、夜のお祭まつりを見に行くところでした。

切り通しをのぼると、かすかな春の夜風にのって、ひゅうひやりやりや
と笛ふえの音が聞こえて来ました。

子供たちの足はしぜん2に早くなりました。
すると一人の子供3がおくれてしまいました。

「文六ぶんろくちゃん、早く来い」とほかの子供がよびました。

文六4ちゃんは月の光でも、やせっぽちで、色の白い、目玉の大きいこと
わかる子供です。できるだけいそいでみんなに追おいつこうとしました。

「んでも俺おれ、おっ母かちゃん5のげただもん」と、とうとう鼻をならしました。
なるほど細長い足の先には大きな、大人のげたがはかれています。

(新美南吉「狐」による。一部いちぶしようりやく)

(注) 地べた…地めん 切り通し…山などを切りひらいて通した道

げた…木で作られたはきもの 鼻をならす…あまえた声を出す



1 線「わらい出す子もありました」とありますが、なぜ、わらい出したのですか。つぎの に当てはまることばを、それぞれ文中から書きぬきましましょう。

地べたにうつった自分の

が、あまりにへんなかっこうで、

なったから。

2 線「子供たちの足はしぜんに早くになりました」から、子供たちのどのようなきもちがわかりますか。もっともふさわしいものを、ア～ウからえらんで、記号に○をつけましよう。

- ア 早くお祭まつりを見たい。 イ 早く家に帰りたい。 ウ 早く笛ふえをふきたい。

3 線「一人の子供がおくれてしまいました」とありますが、なぜ、文六ちゃんはおくれてしまったのですか。つぎの に当てはまるように書きましよう。

自分の足の大きさに

大人おとなのげたをはいていて、

歩きづらかったから。

4 線「文六ちゃんは月の光でも、やせっぽちで、色の白い、目玉の大きいことわかる子供です」から、どのようなことがわかりますか。もっともふさわしいものを、ア～ウからえらんで、記号に○をつけましよう。

ア 文六ちゃんは、体は小さいけれど、とてもものわかりのよい子供だということ。

イ 文六ちゃんのきれいな目が、月の光に照てらされて、月よりも明るくかがやいていると
いうこと。

ウ 文六ちゃんの体のとくちようは、うすぐらくてもよくわかるほど目立っているということ。
5 線「『んでも俺、おっ母ちゃんのげただもん』と、とうとう鼻をならしました」
について、①、②に答えましよう。

① 文六ちゃんは、このことばをどのように言いましたか。ア～エから一つえらんで、記号に○をつけましよう。

ア じまんするように言った。 イ 言いわけするように言った。

ウ ばかにするように言った。 エ 泣きさけぶように言った。

② 「とうとう」をほかのことばにかえるとすると、どれが当てはまりますか。
ア～エから一つえらんで、記号に○をつけましよう。

- ア やっぱり イ またも ウ はじめて エ ついに



文章題テスト・小説(4)

日 月 名前

★つぎの文しようを読んで、あとの問いに答えましよう。

ある山の中に、おもしろいキツネがすんでいました。いつも、ひとりで歩くことがすきでしたが、ある雨の日、いつものようにえさをあさってぼつぼつ歩いていきますと、男の子が四、五人、がやがや話しながら山を下っていました。

人間は二本の足で立って歩いているので、キツネはめずらしくてしかたがないのです。キツネのおかあさんは、「人間のところへ行くどひどいめにあうから、人間のところへせったいに近づいてはいけませんよ。」と、いつもいのですけれど、キツネは、人間のすがたがおかしくてしかたがなかったのです。なによりも、ひよろひよると、立って歩いているのがおかしくておかしくてしかたがないのです。キツネは、子どもたちのうしろから①ついて行きました。「このへんはキツネのであるとところだぞ。」

一人の子どもがいました。

「昼間から出ることはないだろう。」

また一人の子どもがいました。

「昼間でも雨がふっているから出るかもしれません。」

また、もう一人の子どもがいました。

時々、とおくでかみなりが鳴っています。

子どもたちは、何となくきみがわるくなったのでしよう、歩いてきた子どもたちは、ふっと足をとめて耳をそばだてました。すると、一人の子どもがふいに後ろをふりかえって、キツネをみました。

④「あッ、キツネが出おったぞッ。」

子どもたちはびっくりして、まるで豆がはじけたようなすすまじいきおいで、走って山を下りはじめました。

キツネもびっくりしました。どうしてあんなに子どもたちがさつと走って行ったのだらうと思いました。雨のふるなかを、キツネもぬれながら、子どもたちの後をおいかけてゆきました。

細い山道をいくまがりもして、②、人間の通るらしい道の近くへきますと、山の田んぼぞいのところ、大きい牛がもうもうとないていました。

(注) いくまがりもして…何回もまがって

(林 芙美子「狐物語」による。一部変更)



1 線1「人間のところへ近づきたいに近づいてはいけません」とありますが、キツネのおかあさんは、人間に近づくとどうなると思ったのですか。文中から七字で書きぬきましましょう。

と思った。

2 線2「キツネは、人間のすがたがおかしくてしかたがなかった」とありますが、人間のどのようなすがたがいちばんおかしかったのですか。文中から八字で書きぬきましましょう。

すがた

3 ①、②に当てはまることばを、ア〜エからそれぞれえらんで、記号を書きましましょう。

①
②

ア さっと イ そっと ウ もっと エ やっと

4 線3「きみがわるくなった」とは、「こわいかんじがした」といういみですが、そのりゆうとしてあてはまらないものを、ア〜ウからえらんで、記号に○をつけましましょう。
 ア キツネが出るかもしれないと思ったから。
 イ 後ろからキツネの足音がきこえたから。
 ウ とおくでかみなりが鳴っていたから。

5 線4「あッ、キツネが出おったぞッ。」とありますが、このことばは、どのように読むのがもっともふさわしいですか。ア〜ウからえらんで、記号に○をつけましましょう。
 ア うれしそうに、明るい声で
 イ ゆっくりと、しずかな声で
 ウ おどろいたように、大きな声で

6 つぎの二つの文が同じようないみになるように、□に当てはまることばを考えて書きましましょう。

・キツネは、子どもたちを おいかけた。

・子どもたちは、キツネに



文章題テスト・小説(5)

月 日
名前

★つぎの文しようを読んで、あとの問いに答えましよう。

タツオの家には、こわれた柱時計が、そのまま、かべにかけてありました。

【この時計は、全体が古い西洋館のよな形をしていて、ふりこの見えるガラスまどのあるところが、一階、文字盤のあるところが二階です。ひさしの下には、かわいいかざりまどもあり、とびらをあげると、そこからねじがまけるようになっていきます。】

ずいぶんまえから、とまったままですが、そんなかわったおもしろい形をしているので、おとうさんもおかあさんも、かたづけてしまおうのがおしかったのです。

時計のはりは、三時七分まえをさして、とまっていました。

「だからぼく、この時計を見るたびに、もうじき、なんておもっちゃうよ。」

タツオはよくそういってわらいました。

ところが、ある日のことです。

タツオが、ふと時計を見ると、はりは、三時二分まえをさしていました。タツオは、おやっと思いました。

「あれ、いつの間にか、少し進んだな。こいつ、いまでもちよつとは動くことがあるのかな。」

そんなことをつぶやいて、首をひねりました。でも、それはそのときだけで、すぐわすれてしまいました。

こわれた時計が、なぜ動いたのかというと、コロボックルの子どもが、あそびにきたからです。もちろん、だれもないときに。

コロボックルの子どもは、家の形をした柱時計が気にいって、中にもぐりこみました。そして、一人がふりこをみつけると、さっそくぶらんこあそびをはじめました。

カッチン、カッチン、カッチン……。ふりがゆれると、ほんのすこしのこっていたぜんまいの力で、はりが動きました。それで、五分だけすすんだのでした。

(佐藤さとる「コロボックルと時計」より)

(注) 西洋館：ヨーロッパやアメリカふうのつくりの家
コロボックル：アイヌの人びとでんせつにとうじようする、フキの下にすむという神さま
ぜんまい：うずまきの形のばね



1 「」の中の文しようのはたらきを、次のようにまとめました。□に当てはまることばを、文中から漢字一字で書きぬきましよう。

こわれた柱時計の□を、くわしくせつめいしている。

2 線「古い」とはんたいの意味のことばになるように、次の□に当てはまる漢字を書きましよう。

□
しい

3 線「かたづけしてしまうのがおしかった」について、次の①、②に答えましよう。

① この意味としてもっともふさわしいものを、アウからえらんで、記号に○をつけましよう。

ア かたづけてしまうのはもったいないと思った

イ かたづけられなくてざんねんだと思った

ウ もうすこしでかたづけられそうだった

② おとうさんとおかあさんが、このように思ったのはなぜですか。もっともふさわしいものを、アエからえらんで、記号に○をつけましよう。

ア 思いでのつまった品しなだったから。 イ かわったおもしろい形をしているから。

ウ また動くようになるかもしれないから。 エ ほかに時計がなかったから。

4 □に当てはまることばとしてもっともふさわしいものを、アエからえらんで、記号に○をつけましよう。

ア 動くかな

イ 帰ってくるな

ウ おやつだな

エ タごはんだな

5 線「おやっと思いましたが、タツオがこのように思ったのはなぜですか。次の□に当てはまることばを考えて、五字までで書きましよう。

時計のはりが

□

いるのに気がついたから。

6 線「首をひねりました」とありますが、タツオはどのように思ったのですか。次の□に当てはまることばを、考えて書きましよう。

□

だなと思った。

7 線「ふりがゆれる」とありますが、ふりがゆれた理由を次のようにまとめるとき、□に当てはまることばを、文中からそれぞれ書きぬきましよう。

□	□	□	□	□
□	□	□	□	□
□	□	□	□	□
□	□	□	□	□
□	□	□	□	□

が、時計のふりこで

をしたから。

